



リーズ大学全景



正面入り口付近



St. George's Fields 右が筆者

平成3年度文部省在外研究員として、英国中央部の都市リーズにあるリーズ大学にお世話になって以来、出張の機会があるたびに同大学を訪れている。

英国では、数年前の大学改革により多くの Polytechnic が University になったが、リーズ大学は1831年設立の Medical School に起源を持つ歴史のある大学で、その後、他のカレッジとの合併を経て、1887年 Victoria University を構成するカレッジの1つとなり今日に至っている。

同大学は、英国で最も学生数の多い総合大学の1つであり、15の Department と13のセンターに19,000人の学生が在籍し、その内2,000人近くが100を超える国からの留学生で、日本からの留学生あるいは研究者も在籍している。地方都市に位置することや規模など、広島大学と似通った雰囲気を持っており、今後両大学間で交流できればと思っている。

英国の他の大学と同様、学内は緑が多く特に写真の St. George's Fields は学内にばかり空いた広い芝生の空間で、以前は墓地とのことである。写真ではわかりにくいですが、遊歩道は古い墓石を敷き詰めて作られている。そのため歩くのに当初はかなりの抵抗があったが、その後ロンドンのウェストミンスター寺院を訪れた際、通路の床に墓石が埋め込まれているのを見て国民性の違いかと納得した。

工学部機械設計工学講座 山根 八洲男(やまね・やすお)



世界の大学 シリーズ 23

リーズ大学
イギリス

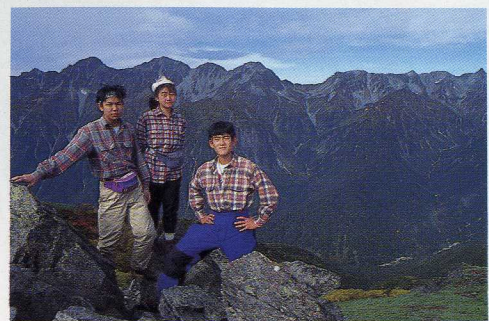
月とフェニックス (表紙)

春の日曜日の夕方、森戸道路をぶらついてみる。
日が暮れ、夕闇が迫ると三日月が姿を現した。
峨々として建つ校舎にはもはや明かりはなく、
路面電車のブレーキ音だけが時々あたりに響きわたっていた。
微風に揺れ動くフェニックスの葉と三日月の景色が、
間もなく来るキャンパスの歴史の終わりを想わせるのだった。

写真撮影：経済学部経済学科平成4年度入学 滝本 勇紀

データ：撮影日時 1994年5月

レンズ 中判カメラ 105mmレンズ



1995年9月29日 北アルプス蝶ヶ岳山頂にて
(本人右端)